

第173回日本経営倫理学会・理念哲学研究部会2012年12月例会議事録

部会長・宇佐神

日時：2012年12月3日（月） 17:00-19:00

場所：学士会館308号室

出席：西藤、佐藤、古山、望月、山本、宇佐神

欠席連絡：新川、長塚、遠藤

1. 1月以降の例会日程：

- ① 1月7日（月）17:00～ 新年会、サイゼリア神保町店
- ② 2月4日（月）17:00-19:00 学士会館 308 号室
- ③ 3月4日（月）17:00-19:00 学士会館 308 号室
- ④ 4月1日（月）17:00-19:00 学士会館 308 号室
- ⑤ 5月6日（月・祝）、6月3日（月）、7月1日（月）に決定

2. 議事：

- ① 研究発表大会における研究発表者推薦の件：3月例会で確定の予定
- ② 「経営倫理の今日的課題」について：宇佐神の今後の進め方についての提案です。
提言（理念哲学研究部会としての学会創設20周年に向けての提言「部会としての今後の研究取り組み等、部会員の皆様の夢と理想について」）を受け、1月の新年会における話し合いを期待したい。それを受けて2月例会にて、出席者は文書等により、日本経営倫理学会が、取り上げるべき、「経営倫理の今日的課題」について見解を開示し、理念哲学部会の提言の準備に入ることとしたい。「21世紀の社会と経営の理念」
- ③ 和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）を20世紀後半展開したポストモダンの「コミュニタリアニズム（共同体主義）」との関連における、発表分担の確認。
第1章1-5（12月）：佐藤、（2）第1章6-11（2月）：新川、（3）第2章12-16（3月）：望月
- ④ 田坂氏の『Invisible Capitalism 目に見えない資本主義』を和辻に続きまたは、並行して取り扱うこと。

3. 本日の研究発表：

佐藤：以下の資料、その他の資料を通して佐藤説を展開された。

『人間の学としての倫理学』第1章1-5.

「和辻哲郎 参考資料①ウィキペディアより」②「アジア経済の特質再考」

宇佐神のコメントを、今後の展開に向けて述べさせていただきます。

第一章1-5は、日本語における「倫理」「人間」「世間」「存在」の意味を追求し、それらが共同態を志向していることを確認し、その総括として、「人間の学としての倫理学」を方向づけたものでした。和辻によれば、倫理とは「絶対的否定性（空）の否定の運動」として捉えられております。空が否定される時、個が成立を見、個が自己を否定して全体に環帰するところに共同態が発展的に形成されることとなります。この共同態の根底にある理法を彼は倫理と捉えました。そして、6節以降で彼は西欧の倫理思想も、社会を視野に入れた場合、同じ方向を目指していたことを明らかにします。1月以降の発表がこのような方向性を踏まえて展開され、和辻の全体像に迫ることができればと思います。 以上